

出前講座報告書

開催日時	令和7年 1月 20日（月） 14 時 00分 ～ 16 時 00分		
開催場所	伊賀市総合福祉会館		
申請団体等名称	伊賀市社会福祉法人連絡会		
テーマ	人材確保について 災害対応について（福祉避難所）		
委員会名等	教育民生常任委員会		
出席議員	北森 徹（委員長） 陶山美佐（副委員長） 上田宗久 福岡正康 浅川友和 内原 篤 大石亮子（傍聴委員）森中秀哲 寺村京子		
		記録者	陶山美佐

【講座・意見交換等の主な内容、対応等】

・伊賀市社会福祉法人連絡会の事業所16法人の取り組みと活動内容の紹介

1 人材確保について

三重県老人福祉施設協会 令和6年度調査結果によると介護職員看護職員採用率の状況は、介護職員89.2%、看護職員94.6%と厳しい状況である。外国人介護人材を採用している41.9%、採用していない58.1%で、「採用している」は平成28年度は1.4%だったが、令和6年度約42%に増えている。外国人人材確保について言葉、文化、宗教、運転免許等問題点はあるが事業所では住居や家電を用意し日本語ボランティアの助けを借り行っている。外国人は日本語を綺麗に使い優しい。しかし、伊賀市外国人雇用は6%であり障がい者の事業所はあまり進んでいない。学校教育の一環として中学校は職場体験、高校は福祉セミナーを実施している。

【議員から提案】

社会と地域と学校が連携を取り、若い世代に福祉介護が必要な仕事だと、体験を充実させていく。

外国人受け入れ体制を見直す。賃金が安く労働時間環境が厳しい。2025年は団塊世代75歳以上になり高齢化が進む。早急に取り組まないといけない。多様性と人権の取り組みを強化する。

【伊賀市社会福祉法人連絡会から意見要望】

外国人雇用に1人あたり100万円位かかるため市で補助金等検討してほしい。

将来的な人材確保の取り組みについて、教育委員会へ小学校授業カリキュラムに入れてほしい。

あけぼの学園高校や白鳳高校では年4回セミナーを実施し仕事の重要さを知ってもらいたい。

中学校職場体験を介して介護の分野に興味を持ってもらいたい。

○三重県特別養護施設の現状

特別養護老人ホーム入所申し込み数62名、新規39名、保留数10名である。特別養護施設は要介護3以上が対象。老人保健施設要介護1～5対象のリハビリを通し在宅復帰を目指す施設であり入所の目安は3ヶ月。

ベッドの数に空きがあるときがあるが、入所タイミングによって変わってくる。本人家族の希望調整に時間がかかる事もあるため。

2 災害対応について（福祉避難所）

連絡会の事業所では福祉サービスを受けている方を中心に受け入れる。障がいまた介護度合いが高い方対象。デイサービスを受けている方は地域のどこに避難所があるかを把握しておく。

【議員から提案と見直し】

器材・人工呼吸器は、使用している方に必要となる設備を整える。また、避難用発電機を建築会社と連携する。

個別避難計画、要支援台帳の制作等。職員と自治協の連携が大切である。日頃から災害時訓練を行う。

市が福祉避難所の目的やルールを市民に普及していく。

教育民生常任委員会で情報共有して、今後の福祉分野の安定した人材確保と賃金を含めた処遇改善できる方法を議論していく。

伊賀市議会議長 様

令和7年 2月 3日

議会議出前講座実施要綱第11条第1項の規定により提出します。

教育民生常任委員長 北森 徹